

# 全国各地で「秋・冬」の保養企画実施

## 8 生協・生協連が、「福島の子ども保養プロジェクト」を実施



参加した福島の子どもみんなと一緒に（コープぎふ）。

夏に多くの生協が取り組んだ「福島の子ども保養プロジェクト」の受け入れ企画。秋、冬にも、コープあいつ、茨城県生協連、いばらきコープ、パルシステム茨城、コープしずおか、パルシステム連合会、コープぎふ、岡山県生協連が福島の子どもたちを受け入れ、保養企画を実施しました。

コープぎふでは、12月22日～

24日、「岐阜・名古屋でおもいっきり遊ぼう!」を企画し、福島から14組35人の親子が参加。子どもたちは、「日本昭和村」（岐阜県美濃加茂市）、「日本モンキーパーク」（愛知県犬山市）などを訪れ、楽しみました。

1日目の夜に、長良川スポーツプラザ（岐阜県岐阜市）で行なわれた「ふくしまキッズ歓迎交流パーティー」では、組合員がにぎったおにぎりや長良店のオードブルが提供され、さまざまなゲームが行なわれました。また、組合員が参加する地域のボランティアグループから、お菓子の入った手編みのクリスマスブーツのプレゼントもあり、子どもたちは大喜びでした。

参加者からは、「すてきな思い出を胸に、今日からまた福島で、元気に過ごしたいと思います」、「家族単位で連休を利用しての企画はありがたいです」、「また家族で岐阜へ行きたいと思います。周りの人たちにも岐阜のことを話したいと思います」などといった感想が寄せられました。



手編みのクリスマスブーツ。



## 「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に行き、見たもの、感じたものを、お伝えしていきます。

電話で被災地のお店の方に新年のごあいさつをした。「1年があっという間、というのは幸せなことなんだとよく分かりました。こっちは（震災から）時が止まっている感じ……」

ご自宅に戻れず、ご家族が戻らない方は数えきれない。時が止まってしまった人たちに思いをはせることは難しいが、大切なことだ。

私事だが、被災地の県産品を買うことはわりと継続できている。実家の母は喜寿の祝いの膳に「宮古のサンマ」をリクエストしてきた。でも、心を支えるのは難しい。

「『こころの復興』が大事な時期に来ているんですね」

ある店長さんの言葉だ。発災直後と、もうじき3年目となる現在とでは事情が変わってきた。一方で、変わっていない、変えられない事情も山ほどある。インフラもだけど、こころの復興は本当に必要だ。

被災された方は、毎日毎日、いろんなことを選択しながら生きている。ふるさとに戻る・戻らない、家を建て替える・建て替えない、さらに子どもたちの進学をどうするか、など大きなことから、今日は何を食べるか、まで。このストレスはどれほどだろう。

被災された皆さんのこころの復興のために私たちは何ができるか。考え続けたい。



珍しく東京も大雪。雪国の皆さんの苦勞を想う。(1月14日)